

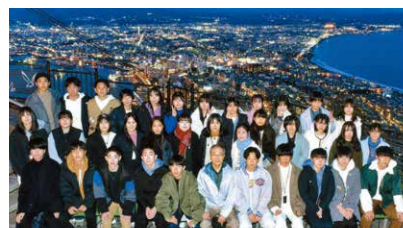
日本大学東北高等学校同窓会会報

# 桜 OUDA 采



NIHON UNIV. TOHOKU DOUSOU  
SINCE 1957

第20号



令和4年 修学旅行、函館山からの夜景

発行日/2022年12月21日

発行/日本大学東北高等学校同窓会  
郡山市田村町徳定字中河原1

<http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com>

編集/日本大学東北高等学校同窓会桜采編集部



祝

日本一！夢を叶えた瞬間 ガッツポーズの齋藤慧舟選手！

全国高校総体2022(インターハイ陸上男子200m決勝)関連記事11ページ

# 桜朶のこだま

1. 昭和32年7月10日

木造校舎に  
桜朶が咲いた

母校が

阿武隈川の光に

虹に

瞬く星に

地図になり

広がる

— 安積永盛駅での語らい

— 永徳橋でのつぶやき

— 心が迷子のらく書き

あれも

これも

こだま

こだまは こだまを呼び

若いこだまを呼び

1971. 7. 10  
TAMURA

2. 1. アカシヤ林で

流した涙も

1. エンジニアの

笑い声も

セピア色のアルバムで

輝きながら

こだまを呼ぶ

1. 磐梯おろしに

素顔を向け

1. 郭公鳥に

夏を仰ぎ

1. 守津峯に

青春を映して

幾星霜……

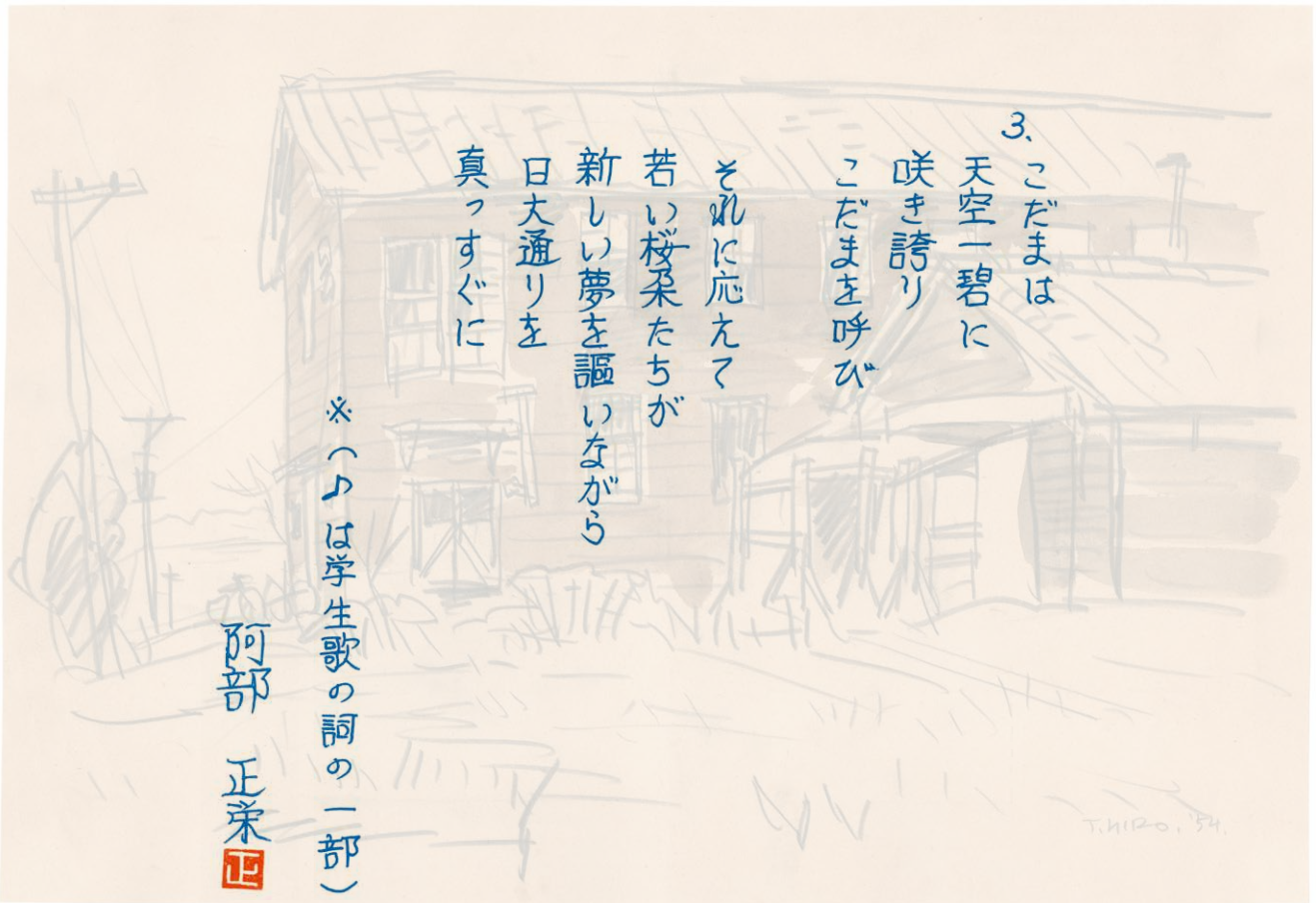
平成22年7月30日

満開の

桜朶がこだまする

TAMURA 59 Ap. 3

絵：廣長 威彦氏



3. こだまは

天空一碧に

咲き誇り

こだまを呼び

それに応え

若い桜朶たちが

新しい夢を謳いながら

日大通りを

真っすぐに

※（このは学生歌の詞の一部）

阿部 正栄

## 螢

母が束ねた「焚き木」を画く。縄の結び目があまりにもしっかりしていて、傷い。蜩の声に少年が泣いて、母の死を泣いて、泣き疲れると、高燈籠が灯り、眉月が出て、風が吹く。

喪失の中で、母の骨を握ると、あたり一面、桜吹雪。埋もれる桜吹雪になり、沈むような、浮かぶような思いがくり返され、気が遠くなっていく。その先で、母の声がして、独りではないことを告げられ、微睡む。

うつすらとした景色を背に、猫背の母がこちらに向かって歩いて来る。しかもへ車椅子まで押し

て。やがて、光が母を際立たせ、満面の笑みで、桜の花を少年にわたすと、母はいなくなり、手には小さな骨がある。それは、蓮華座を組んだ、如来像のような喉仏。

送り火が終わり、少年は、少年の歯型をつけて土にかえそうと、その骨を口に含む。すると、灯りが消えた高燈籠に一匹の螢がとまり、盛んに光りはじめる。

やがて、その光は大きくなり、さらに大きく、数えきれぬ螢群になり、新たな信仰のはじまりとなつて、煌めき、ひるがって行く。

作者…あべ まさえい

・元国語科教諭 ・第14期卒

・日本現代詩人会、福島県現代詩人会員 日本大学付属高校

・文芸作品コンクール詩の選者

高校舎、(4号舎)  
校舎風景、1

## 会長あいさつ

### 3年ぶりの対面式典

日本大学東北高等学校  
同窓会会長  
村山 廣嗣 16期生



同窓生の皆様、こんにちは。

会員の皆様には日頃から同窓会活動にご協力ご支援をいただきありがとうございます。今年も残すところあと少しとなりました。その中で会報『桜朶』の発行となります。ご担当の先生方、本当にご苦労様でございます。感謝に耐えません。

さて、今年もコロナウィルスの影響を受け同窓会活動は縮小となりましたが、2022年3月の卒業式と4月の入学式は、それまでのリモートではなく、生徒と対面しての3年ぶりの体育館での式典となりました。誠に嬉しい限りであります。各支部同窓会におきましても、活動の中止または縮小を余儀なくされており、活動の縮小停滞は本会の存続発

展に関わる問題であります。その中で在校生の活躍はめざましく、私たちに希望と勇気を与えてくれるものでした。日大東北高校生諸君! ありがとう! さらに高みをめざして頑張ってください! 同窓会は皆さんの益々のご活躍を期待し、応援しています。

ところで、今年度の定例役員会において同窓会館資料室設置に向けた学校への嘆願書提出の件について、話を一歩前進させることができました。また3年後の令和7年予定の70周年記念事業等についても、コロナ禍の中ではありますが出来る限り役員会を開催して準備して参ります。一日も早く平穏な暮らしが戻り、マスクなしで皆様にお会いできることを願うとともに、多くの同窓生に同窓会へのご参加とご協力をお願いいたします。

最後に令和5年は皆様にとって輝かしい新年になりますようお祈り申し上げます。



## 教頭あいさつ

### 変わるもの 変わらないもの

教頭 花里昌昭



同窓会の皆さまにおかれましては、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。平素より本校の教育活動に対して、ご支援を賜り心より御礼申し上げます。

さて、1951年創立の本校は、38,000名を超える卒業生、および来春73期目の入学生を迎える伝統ある進学校へと発展を遂げています。

現在、令和2年に完成した新校舎で、1,540名の生徒と115名の教職員が、ともに学び活気のある学校生活を送っております。

本校の教育環境も大きく変わりました。施設面においては、冷暖房と耐震性能が備った新校舎・体育館で、安心安全に授業や部活動で使用することができるようになってきました。特に授業においては、iPadによるICT授業(情報通信技術を駆使した授業)を県内で最も早く導入し、学修者が自ら能動的に学びに向かうアクティブ・ラーニング型の学習法を実践しています。今までのように、黒板いっぱいチョークで書く先生の姿は、残念ながら見られなくなりました。

また、本校キャンパスの南側に笹川大善寺線が開通し、国道4号線から国道49号線へのアクセスが可能となりました。それに伴い、永徳橋のほかに笹川大橋が新設され、学生歌の歌詞にもある「アカシヤ林」を通って登下校

する生徒の姿はありません。

ふと教員室から外を眺めると、日本百名山の一つ安達太良山が広がっています。今年は11月下旬に積雪が確認できました。

本校にとって安達太良山は、四季折々の表情を楽しませてくれる美しい風景の一つであるとともに、開学当時から変わらない懐かしい風景でもあります。



春



冬

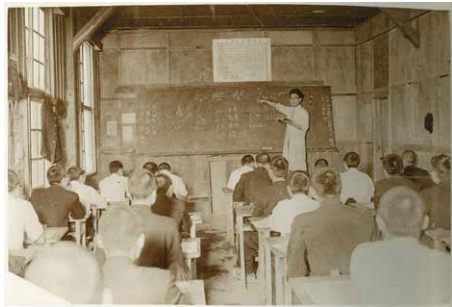
## 高校時代の思い出 と我が人生

昭和33年工業化学科卒 第5期生  
齋藤 正博氏



私は昭和33年工業化学科 5期卒業の齋藤です。

当時の高校進学率は20%位で、大部分の同級生は集団就職で東京に行く時代でした。我が家は貧しいながらも、私は化学が好きだったので日工(日大東北工業高校)の工業化学科に行きたいと親に願い出て無事入学できました。



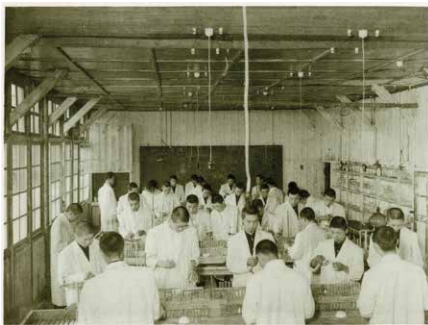
同級生は36人で、県内の会津若松、土湯、鮫川村等、遠方からの生徒もいました。

入学式後の数日が過ぎたある日、3年生から「東北本線下りの者は日和田駅で下車し、安積山に集まれ!」と言われ、1年生、2年生、3年生が一堂に会して校歌を習いました。これが先輩達との絆の始まりでした。

当時の科学の授業は、日大第二工学部の先生達が教壇に立たれ、物理化学は宇野原信行先生、無機化学は後藤尚先生、有機化学は高木昭先生に教わりました。

高木先生には「卒業後は自動車の免許を取り、社長の車の運転を出来る様になれ。」と教われました。その当時、まだ車社会ではない時代だったので、自分が車を持つなどは夢にも思いませんでした。化学の実験は白衣を着て授業を受けましたが、休み時間の相撲合戦も白衣を着て闘ったのを懐かしく思い出します。また学生帽は傘の生地を取って帽子屋に注文する時代でした。

今では考えられないことですが、出来上がった帽子に生卵の黄身を塗り、ピカピカに磨いた帽子が流行っていました。



私たちが3年生の時、日本の経済は鍋底景気(不景気)に陥り、卒業式までに就職が内定した者は50%位でした。私は運よく郡山市内の東北工業株式会社に就職し、感光紙を作る仕事に就きました。その当時の初任給は僅か5000円でした。

2年後札幌に転勤になり、3ヵ月過ぎた頃、親父から「おまえは長男なので地元に戻って来い。」と言われ、直ぐ保土ヶ谷化学郡山工場に就職しました。そこでは研究課に

配属され、低毒性除草剤の開発等を担当したのです。

東大出身の課長から「これからの仕事にはドイツ語が必要になる。」と言われ、高校卒の同僚数人で仕事終了後、毎日2時間位勉強をしたのを覚えています。学生時代よりも一生懸命勉強をしました。

昭和41年、保土ヶ谷化学の新子会社で過酸化水素を製造する日本パーオキサイド株式会社に出向することになり、同じく研究課に配属された私は過酸化水素の誘導品の開発を担当することになりました。幸いにも過炭酸ソーダと過酸化カルシウムの製造法を確立することができ、両製品共に日本で初めての商品化だったことから、当時は化学業界から脚光を浴びたのです。過炭酸ソーダは、家庭用漂白剤として花王から「ワイドハイター」として発売されるとともに、全国のクリーニング店で使われています。また、過炭酸ソーダを使用した製品は現在でもホームセンター等で販売されています。

一方、過酸化カルシウムは農業資材や漁業の養殖場の環境改良剤と使われ、これらの関連の特許6件を取得することが出来ました。

この様な仕事が出来た事は、母校での学びとお世話に成った先生や友人のお陰と、いつも母校に感謝しています。

退職後の平成4年から28年まで、私は民生委員として地域の福祉活動に携わって来ました。この間、本宮市民生委員協議会長、安達地方民生委員連絡協議会長、福島県民生委員協議会長、全国民生委員連合会評議員を務めさせて頂き、平成29年の秋の叙勲で藍綬褒章の拝受に浴し、褒章の伝達を受け夫婦共々皇居に参内し、天皇陛下に拝謁の荣誉とともにお言葉を賜る機会を得て、感激の極みでした。(桜梁16号掲載)

平成17年からは福島民報社の「ふるさと記者」として活動し、地域の催しや母校同窓会南達会の事業等の記事を新聞に掲載することもできました。

趣味の民謡は昭和61年から後輩の正雪民謡会福本政彦主(第10期電気科卒)に手ほどきを受け、今でも楽しんでます。

昨年は日本民謡協会福島県央大会に出演し、80歳以上に贈られる「嬰鏢賞」(はくしゃくしょう)を頂くことができました。

このように、私の人生は悔いのない本当にラッキーな人生でした。

母校への感謝の念を忘れず、趣味の民謡や皐月、旅行を通して余生を楽しみたいと思っております。



級友とともに、前列左端が齋藤氏

## ～シャトルを追い続けた 私の人生の出発点～

昭和48年電気科1組卒 第20期生  
國分 仁一郎氏



### ◆二人だけの県大会

高3の春。私と菊池修三先生は県高等学校体育大会の県大会の会場にいました。

ベスト4をめざすシングルス、対戦相手は会津工の選手。ネット越しに対峙し、激しく打ちつけるスマッシュを、私は粘り強く拾い、そして攻撃を繰り返しました。

得点ルールが現在とは違って、サービスポイント制(サーブ権を取ってポイントとなる)だったので、両者の点数が変わらないままサーブ権だけが移行する息の長い試合展開でした。

宿泊先が同じだった郡商(郡山商業高校)・安商(安積商業高校、現帝京安積高校)の選手たちは、日工(日大東北、以下「日工」と表記)には他に応援選手がいないのを知っていて、大きな声で私の試合を盛り上げてくれました。

本当に嬉しかったのを覚えています。その声援に力をもらい、私は矢継ぎ早に飛んでくる目の前のシャトルに集中しました。人一倍体力には自信のあった私でしたが、1対1のセットカウントからファイナルへともつれ込み、とうとう力尽きて敗れました。

こうして高3の最初で最後の私のバドミントン県大会は、充実した達成感で終わったのです。

### ◆工学部バドミントン部での特訓と入院

振り返れば、日工ではバドミントンをやるつもりがなかった私ですが、中学校の同級生達(バドミントン仲間)が郡商と安商で活躍しており、彼らが県大会で勝てない様子を耳にし、しかも「國分なら県大会出れっぞ!」という言葉に背中を押され、高2の春に私は日大工学部のバドミントン部の門を叩いたのです。主将と一緒に練習させてほしいとお願いするためでした。その場で了解を得てからは、毎日遅くまでの猛練習が続きました。先ほどもお話ししましたが、さすがに体力に自信のある私も工学部の大学生ついていくのは精一杯でした。苦しさのあまり何度かトイレに駆け込み吐く始末…。

強豪選手ぞろいの選手にしごかれ、帰宅時間は毎日22時。それでも毎日が充実していて楽しかったことを覚えています。

その後過労がたたリ、私は約2ヶ月間の入院を余儀なくされました。原因はわかっていました。身体が悲鳴を上げていたのです。

実は、どんなに疲れて帰宅しても製図等の宿題は必ず仕上げると決めていました。電気科の製図の課題は時間がかかり、時には徹夜することもありました。身体に過重な負荷がかかっていたようです。

病院で療養しながらも、私の頭には工学部のバド部主将から言われた言葉が常にありました。「國分もバドミント

ン部を作ってやってみろ!おまえならできる!」

私はどうも高3の春に、卓球部で顧問をされていた菊池修三先生にバド部の顧問を兼任で引き受けて下さるよう頭を下げてお願いしました。緊張していた私に、菊池先生は笑顔で応えてくださいました。

そして練習の日には必ず顔を出し、いつも優しいあの笑顔で見守ってくださったのを懐かしく思い出します。そのお陰で、冒頭に述べた県大会参加が実現したのです。菊池先生には本当に感謝の思いで一杯です。

### ◆日エバドミントン部愛好会の発足、部への昇格

そのように、本校のバドミントン部は最初愛好会に始まり、3年生の私、2年生3人、1年生4人、計8名での出発でした。私にとって後輩の指導は初めてで、戸惑うことの連続でした。

当時は現在のようにバドミントン競技自体に人気はなく、入部してくる後輩たちはほとんどが個性的な性格の持ち主、あるいは見るからにか弱そうな生徒でした。

とにかく体力と持久力を鍛えるという目標のもと、校庭を走らせました。今思えば、技術面より精神論(根性論)だけになっていた様な気がします。

それでも素人だけで出発した私たちのバド部は、努力の成果が見られ、2年後の県新人体育大会 県中地区大会において、団体 ダブルス、シングルスと三冠を取得し、その実績が生徒会に認められ、ついに愛好会から部に昇格したのです。

中学校での経験選手らを破っての優勝は快挙で、心から誇らしく思いました。満身に練習できる場所もない中、校庭の砂場や校舎の廊下にロープを張っての練習でしたが、後輩たちはよく我慢してやってくれたと思います。



部長への功労賞受賞式後

当時郡山市内のバド部のある男子校は、郡商と安商の2校、女子では、安女と郡女と郡商と安商の4校でした。日工は男子校では3番目の創部です。

### ◆仕事を終えて後輩の指導に駆けつける日々

バド部の合宿があるときは平日でも後輩の指導を欠かすことなく、嫌というほど走らせたものでした。

後に、後輩から聞いた話ですが、当時の私は「鬼」と言われ相当嫌われていた様です。思い当たる節があります。合宿最後の日は、確かにいつも人数が少ないような気がしていましたから。

それでも我慢して乗り越えた生徒だけが、県大会に出場できたのは事実です。それが私は嬉しくて、それまで以上の練習メニューを後輩にさせたことを思い出します。

基礎体力づくりの練習メニューが余りにも多過ぎて、生徒からは「コート内での練習が出来ない!」と苦情を言われた事もありました。

## ◆バドミントン部 OB 大会・記念式典の歩み

バドミントン部OB会の発足は昭和50年の4月1日。第1回のOB 大会開催は昭和56年8月にダブルスのトーナメント大会から始まりました。(優勝ペアは石井・増子組)翌年昭和57年8月に第2回を開催し、以後コロナ禍前の令和元年(2019年)の第37回大会まで毎年欠かさず開催しています。

特に母校の記念体育館をお借りして開催した「10周年を記念する大会」では、斎藤栄一先生から OB 大会記念マグカップ(歴代 OB の名前を筆で書いたカップ)を頂いたことが印象深く記憶に残っています。

平成10年(1998年)からは団体戦も始まりました。(優勝はDチーム)平成元年に女子が入学したのをきっかけに、大会名称を「OB・OG 大会」に変更しました。

昭和62年4月17日に第一回総会を開き、現在に至っています。名称もバドミントン部OB会から「後援会」に格上げし、後輩の後援活動をしています。

平成3年度卒業生から OG会が発足すると、後輩の指導を含め活動が活発になり、バド部卒業から20年が経った平成4年7月に、磐梯グランドホテルにて一泊二日の「20周年記念祝賀会」を開催しました。

また30周年記念祝賀会を平成16年8月に郡山ビューホテルアネックスにて開催、さらに平成25年8月に郡山ビューホテルアネックスにて「OB会結成40周年 OG会結成20周年記念祝賀会」を開催し、現在に至っています。



## ◆バドミントン部の忘れられないエピソード

バド部の歴史の中には、色々なハプニングがありました。県大会の会場に遅刻して、棄権となったチーム、県大会で熱戦を繰り広げたまでは良かったものの、帰りに大切な部の応援旗を会場に掲げたまま忘れて来たチームもありました。

また、高校1年で初めてラケットを握り、県大会に出場できるまで成長した後輩がいました。

その他、県中地区予選で帝京の選手と死力を尽くして負けたにもかかわらず、その姿に会場にいた選手全員を感動させる後輩もいました。

さらに富岡高等学校(現ふたば未来学園高校)に所属していた桃田賢斗選手と試合をした後輩など、黄金時代を築いた歴代の後輩達も沢山いました。「限界の壁は自

分で作るもの、心がけ次第で人生はいくらでも楽しく素晴らしいものになる」と私は考えます。今後の学校での部活動は様々な要因から益々難しくなり、初心者で勝利するためには、よほど効率よく練習し、時間内に成長していくことを考えなければならない時代に入ってきたように思います。これからも後輩達には自分たちでバド部の歴史を作ってほしいと強く願っています。そのために、私ができることを少しでもお手伝いできればと考えています。

## ◆バドミントン部創部50周年記念大会に向けて

ここ数年にわたり新型コロナウイルスの影響を受け、学校生活も部活動も制限がかかっていることは皆さんもご承知の通りです。

バド部のOB・OGが毎年楽しみにしている大会開催も、令和2年から3年4年と中止になっており、大変残念で会員の皆様には本当に申し訳なく思っております。しかし、来年の令和5年こそは自由に躍動できる年にしたいと願うものです。バド部後援会は、令和3年度卒業生の男子はちょうど創部50年目の年に当たり、卒業生が247名となりました。女子は創部31年目に当たり、卒業生が148名となり、総勢395名の会員数となりました。

来年令和5年8月11日・12日の何れかの日に、『OB・OG 大会』、『OB会創立50周年記念・OG 会創立30周年記念祝賀会』を開催できるよう、役員が全力で取り組んでおります。記念祝賀会を通して、バド部の50年間と、卒業生 395名の歴史を懐かしく振り返る場となれば幸いです。会員の卒業生が一人でも多く参加されますよう心からお待ち申し上げます。

おわりに、バド部に入部する生徒が年々多くなり、現在人数も50名を越える(R4年度は70名)大所帯になっています。そのため現役高校生とのコミュニケーションを重視することを目的に、平成10年度からは『OB・OG 大会』を団体リーグ戦に変更しました。お陰様で毎回楽しく盛り上がっています。これもひとえにご指導くださった先生方や運営に携わった先輩方のご協力の賜と感謝申し上げます。特に歴代顧問の先生方には我がまま放題に後輩を指導することを許可して頂きましたこと、改めて感謝申し上げます。

指導中も少しでも不愉快を感じさせるようなことがありましたら、私のバドミントンに対する熱い情熱ゆえであったと、何卒ご容赦いただければ幸いです。

母校バドミントン部50年の歴史が今日までこられたのは、後輩たちが頑張って実績を残し、牽引してくれたお陰です。心から感謝の意を表し、ここに筆を置きます。ありがとうございました。



女子団体戦地区予選県大会出場決定後



## 高校時代の思い出

### ～劇団「M」の正体～

普通科2組 平成11年(1999年)卒 46期

谷代 克明氏



「時間は、何かやっても、  
何もやらなくても、過ぎていく。  
そして、時間は二度と戻らない。」

この言葉は、私が高校時代に恩師から与えられ、仲間と共に立ち向かった作品のテーマです。卒業から25年が過ぎた今でも、私はこの言葉を一日も忘れたことはありません。

恩師になる伊東伸泰先生との出会い、そして、当時の私の情熱の全てを注いだ演劇愛好会で得た経験と教訓、共に活動した仲間との学びは、その後の私の考え方の基礎となり、その「考え方」は卒業から25年後に、命までも救ってくれる「生き抜く力」へと成長します。

もしもあの時、先生に、共に試行錯誤してくれる仲間、そして、この「時間」というテーマに出会っていなければ、今の私は存在していなかったでしょう。

この度、このような寄稿の機会をいただき心から感謝いたします。

### 【無我夢中で全てを出し尽くした高校生活】 「何もない!!全てはそこから始まった」

入部した※演劇愛好会は、道具もない、部室もない、目標や伝統も、教えてくれる先輩すらいない。使えるものは自分たちの頭と体と時間の3つだけ。それでも、やりたい!という気持ちだけで思い切りぶつかっていくしかなかった。

### 「ないものは作れ!」 舞台は何でも出来る 何にでもなれる夢の空間」

台本がないのであれば創ってしまえ!顧問の伊東伸泰先生の発案で「世界に一つだけの作品を創る」挑戦が始まる。テーマは「時間」。自分たちの頭の中を「言語化」し、自分以外の視点から「客観的」に見て、仲間たちの「価値観」を取り入れ、何が伝えたいのか「本質」を見極め、作品がやっと仕上がっても「自己満足」を徹底的に疑い練り直す作業。成功どころか、失敗の連続と、時間への後悔ばかり。それでも、ただ直向きにギリギリまで諦めず妥協しないで全力で乗り越えるしかなかった公演の全て。(出では負けの連続)

### 「クッキングパパの壁」

全くOKを出してくれない顧問のクッキング(恩師の伊東伸泰先生の愛称)に「面白い!」と言わせるため、正攻法からバカなことまで、思い付く限り全てのアイデアでぶつかっていった仲間との試行錯誤。何百回叱られても、仲間がいたから折れなかったし、何度も何度も挑戦することの楽しさを実感していく。

### 「奇跡は降って来るものではなく、 人の手で創るもの」

アイデアだけしか武器がなく、関わってくれた先生方と生徒の熱意、沢山の人の協力を実現した奇跡のミュージカル。顧問の佐藤陸浩先生率いる吹奏楽部との、部活の垣根を越えた初めてコラボレーション企画、ク

リスマスフェスタ「もののけ姫」の上演。真冬の体育館、お客様は10人ちょっと。だが、これがきっかけで翌年から2年間、吹奏楽部さんの定期演奏会でミュージカルを上演。「サウンドオブミュージック」「オズの魔法使い」、奇跡の大成功へとつながった。



サウンドオブミュージック 初の大ホール公演 オズの魔法使い 卒業生全員集合 感動の舞台

### 「5本の照明からはじまった予餞会 …そして」

さらに、この年の予餞会から、生徒会さんと協力し、舞台セット・演出を担当した。

カラオケ大会が主流だったが次第に出演希望者が減っていった……誰もが出演したい舞台を創ろう! 予餞会では全員が完全に裏方に徹し、楽しんだ。(生徒会さんの援助で5本の照明器具を購入して頂きみなどで興奮したことを覚えています) こうして自分たちの大会だけではなく、アカシヤ祭、新入生歓迎会、クリスマスフェスタ、予餞会……一年中何かのイベントに明け暮れた。



教員の大会唱

野球部全員でマツケンサンバ

### 「周りが引くほど努力して 勝ち取った最優秀賞」

日本全国の日本大学の附属高校が参加する日本大学芸術学部での演劇大会。

高校3年生で「最初で最後」の出場をし、集大成の作品で最優秀賞を受賞する。

私たちと先生の3年間の全てを出し切った、その年の日芸大会の日本一の結晶。





## 「気が付けば、全ての夢の実現」

高校卒業後、私は演劇をもっと深く学ぶため日本大学芸術学部の演劇学科に進学しました。大学に進学しても私には高校で学んだ教訓が染みついていたため、時間を惜しんで学べることに全力で挑み、沢山の人の出会いから多様な価値観を吸収し、芸術としての演劇を学び、更にのめり込んでいきました。大学在学中から夢を叶えて役者として活動し、自分自身の更なる成長を求め、第二の夢である演劇を使ったコミュニケーション教育の授業を教える高校の教員になり、震災が転機となって、現在は実家を継いで、福島県の農業を支える果樹農家として働いています。振り返ってみると、自分のやりたかった夢の全てを後悔なく実現できていることに気がきました。



## 【人生最大の試練】

### 「命を失いかけた大災害」

果樹農家の経営者として全てが順調だった今年の6月、果樹園地で降雹と大規模な土砂崩れが起き、私は危うく命を失いかけてしまいました。しかも、雹の被害で年収の8割を失い、土砂崩れにおいては災害指定も受けられず、復旧費用は私の生命保険の全額でも足りません。

家族の生活を守るため谷代家が100年続けた農業を辞め転職すべきか、復旧費用を準備するために自分の命を天秤にかけるべきか深く深く悩みました。なぜ自分ばかりか、という悔しさと何度も大泣きしました。ピンチはチャンスなんて、これまでの人生のように簡単に転換できる状態で はないし、言葉を当てはめるなら間違いなく「絶望」です。



しかし、絶望にタッチした瞬間に、私には、それでもまだ一つだけ失っていないものがあることに気がきました。それは私の「考える力」です。

電も土砂崩れも被害が起きる前にはもう戻れません。そうであるなら、下を向いて何もしないのではなく、上が向けなかったとしても何かを見つけ行動することに全力を尽くす方を選ぶと考えました。そう、それは「時間」のテーマに今の状況を当てはめてみることにしたのです。

絶望というどん底まで落ちたなら、これからやることの全てはプラスにしかならない。そして、この日本では、雹や豪雨、台風などの自然災害がない年はただの一度もありはしない。だとすれば、今後誰かが私と同じような被害に遭った時、その人が少しでも救われる方法が見つかるのであれば、今年の私の取り組みは「困難を乗り越えた実践のサンプル」として必ず役に立つ時が来るのではないかと。私はこの最悪の状況を、二度とない学びのチャンスだと考えることにしました。



未曾有の災害を乗り越えてできた作品

## 【壁の正体】

たとえどんな状況でも、転んでもただでは起きない貪欲さ、思考の柔軟性、そして、混乱した頭でも自分の考えを言語化し、整理して他者に伝える力、問題の本質を捉え、格好付けずに人に助けを求め、人と協力して問題を解決する行動力、そして、それら全てに前向きに取り組む「生き抜く強さ」、これらの力こそ私が高校時代に身に付けた財産です。

クッキングが、なぜ私たちに嫌われようと、全力で壁となってくれたの

か。それは、「学校は、生徒が社会に出て大失敗をしてしまう前に、失敗しても安全に立ち上がる訓練が出来る場所」であり、教師はそのための壁にならないといけないもの。そして教師は、壁を越えていく奇跡に出会える素晴らしい職業とわかっていからだと思います。

先生は、私達を子供扱いせず、ひとりの人間として対等に向き合い、対話することに膨大な時間を費やしてくれました。難題にぶつかった時も、どんなに時間が掛かろうと安易に結論を求めず、一緒に悩んでくれました。

私は、高校生という早い時期に先生という壁に出会い、乗り越える工夫と訓練を仲間と共に全力でやらせてもらえたこと、その経験のおかげで全ての夢を実現できたこと、そして、何よりこんな状況でも幸せだと感じられる心の強さを育てていただいたこと、先生と仲間には心から感謝しています。

これは、最初で最後の

日芸に参加した台本の「あとがき」です。

最後の最後まで

あと一分、一日、一週間あればと思った

私達にはどれほどの時間があれば足りるのか

時間は限られているのに…

高校三年間は二度と戻ってこない

時は止まってくれない

時は戻ってもくれない

これが 時間の怖さかもしれない  
(そして 私たちは)

まだ時間の本当の怖さを

知らないのかもしれない



後輩たちの活躍

時間は、精一杯生きて、

何もしなくても、過ぎていきます。

一度しかない人生、

あなたならどう生きていきたいですか？

※演劇愛好会 平成4年 土屋秀夫教諭のご尽力で発足した。

# 研究室の先生が母校のアカシヤ館を設計していた!?

宇都宮大学 大学院 地域創生科学研究科  
 社会基盤デザイン学科専攻 建築学プログラム修士2年  
 平成27年度卒 第63期生 神田 紗穂氏

## 研究室ごと母校に来校!

神田さん所属研究室の古賀誉章先生は、以前設計会社にお勤めで、その際、本校アカシヤ館の設計をされました。

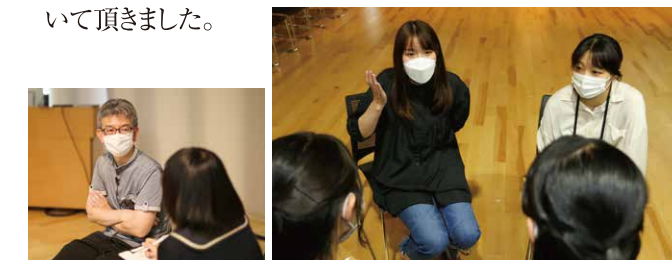
神田さんが本校の卒業生ということで、この夏、ゼミの一環として研究室の皆さんと来校してくださいました。



当日は、IIコース1年生のスキルアッププログラムの一環として、大学のこと建築学についてクイズを交えながらご講演頂きました。とても明快で、建築学の流れがはっきりとわかる講演でした。



講演後は、学生の皆さんに希望者対象の相談会を開いて頂きました。



生徒さん達とお別れし、ゼミの始まりです。アカシヤ館の外観、屋上、食堂、多目的ホールの細部にわたり設計面で配慮したことなどを大変丁寧に説明されていました。

学生さんからもたくさんの質問があり、活発なゼミの風景でした。



アカシヤ館は平成10年に完成し、郡山市のさわやか建築文化賞を受賞しています。

また、多目的ホールを使用したイベントの写真をご覧になって、感激して下さいました。「ここまで使えてもらえて嬉しい」とお言葉を頂きました。

平成10年から、一昨年新校舎の集会ホールが出来るまでは、ほとんどのイベントをこのアカシヤ館多目的ホールが担っていました。集会、各種説明会、講演会、文化部のイベントなどなど、この空間を懐かし思う卒業生もたくさんいると思います。



最後に、新校舎を見学され、広い廊下や、多くのスペースの活用法を考えると、わくわくします。「どんどん使って欲しい」とおっしゃっていました。

別れ際には、「ぜひ来年も!」というお言葉を頂きました。卒業生が拓いてくれたご縁を大切にしたいと痛感しました。今回、卒業してからも頑張っている卒業生から多くのパワーをいただきました。



# 令和4年度 母校のトピックス

## 憧れから夢へ、そして頂点へ!

齋藤慧舟3年(白河第二中学出身)  
**徳島インターハイ2022 男子200メートル優勝**

### ◆高校陸上での目標は全国大会

小学校4年生から陸上を始めた齋藤慧舟君。中学からは父親と一緒に練習に励んだ。高校入学時の目標はトップ選手と全国で戦うことだった。そのために三年間を通じて自分を成長させると心に決めていた。全国が見え始めたのは高校3年生の春。2年生の冬に自分を追い込んで磨きかけ、身体はもちろん筋力や技術的にも向上したことで十分トップ選手と戦える自信がついた。(陸上ジャーナル11月号記事掲載)それまで全国の舞台で走るという憧れが現実味を帯びてきた。ところが、高校総体県南大会で100m・200mともに2位という記録に落胆する慧舟選手。県大会でも悔しさの残る2位フィニッシュ。気持ちを切り替えて行くと考えていた時、「君こそアスリート」というTV番組をはじめ各種メディアの取材を受けたことをきっかけに、周囲からの期待を肌で実感し、リベンジしようとする心に火が付いた。結果、東北大会では100m・200mともに1位!念願の夢だった全国大会が、ついに視界に入ってきた瞬間だった。「自己ベストタイムを出せば3位は狙える!」決勝に進出できると確信していた。「どうせ決勝進出するなら、1位しかない!」という想いが日に日に強くなる一方で、新聞などのメディアに取り上げられたことによるプレッシャーを感じる葛藤の日々が続いた。

### ◆プレッシャー克服の秘訣

彼は1位でゴールを切った時のイメージを鮮明に描いていた。それは「走り終えた後、観客席で応援してくれている顧問の先生や部活の仲間に自分の勝利をささげ、感謝している姿」だったという。決勝当日、まさにそのイメージ通りに走り抜いてゴールを切った。「高校の大会の集大成として、それをやりたかったんです。」とはにかむ慧舟君。まだあどけなさの残る18歳だ。顧問の高橋直之先生から「本当に1位になって良かったね。」とメールをもらった時、3年間やってきて本当に良かったと、しみじみ実感したという。

### ◆失敗から得た教訓

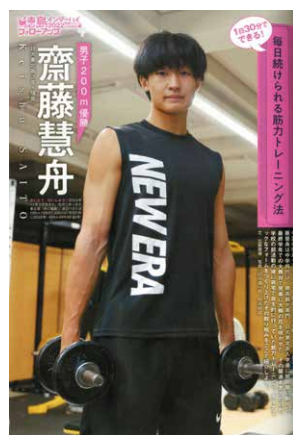
入学から最後の大会まで、もちろん順風満帆の陸上生活ではなかった。実は彼には、1年の冬から2年にかけてモチベーションの面で気が抜けてしまったことがあり、大切な時期に十分な追い込みができなかった苦い経験がある。その失敗の経験があったからこそ、2年の冬は真摯に自分と向き合い、結果につながるトレーニングで自分を追い込むことができたようだ。失敗から学べるところが彼の強みだ。

### ◆アスリートとしての今後の目標

彼はすでに日本大学のスポーツ科学部への進学が決定している。大学ではさらに自分を成長させて、まずはアジアでトップをめざすと話してくれた。次のオリンピックはパリだが、その次のロスアンゼルス・オリンピックを見据えているという。「子どもの頃からの夢だったオリンピックに出場することを考えるとワクワクしてきます!」と語る彼の目は、キラキラと輝いていた。

全国1位本当におめでとう!

話を伺っているうちに、私の目の前の慧舟君とロス・オリンピックのトラックに立って観客席にアピールしている24歳の彼の雄姿が重なって見えたような気がした。



驚異のラストスパートで2位との差0.01の「21秒47」でフィニッシュ!

動画: インハイTV提供 7分20秒より



## 令和3年度 卒業生合格状況

令和3年度卒業生総数455名

※延べ人数

日本大学 294名 国公立大学 37名 他私立大学 188名 専門学校 39名 就職 1名

### ◆ 日本大学

法	15	経済	13	芸術	3	危機管理	2	生産工	26	生物資源科	20
文理	25	商	13	国際関係	9	理工	53	工	108	短期大	1

### ◆ 国公立大学

弘前大学	1	岩手大学	1	宮城教育大学	1	山形大学	1	福島大学	7
茨城大学	1	宇都宮大学	1	埼玉大学	3	電気通信大学	1	山梨大学	1

### ◆ 私立大学

東京理科大学	2	明治大学	1	青山学院大学	1	学習院大学	1	中央大学	2
獨協大学	1	成蹊大学	2	明治学院大学	2	同志社大学	2		

※詳細は学校HPをご覧ください。

ほか





入学式  
第72次  
生徒会役員→

入学式

修学旅行→

卒業式

## 令和三年度同窓会賞



### 三世代賞

赤石沢美里 青木 紀香  
赤石沢雛乃 小玉 晏  
荒木 悠弥 松本茉莉亜  
川島 悠詩 榎本 朱莉

受賞者には三世代の名前の入った記念の楯と記念品として置き時計が贈られました。令和2年度までに56名の受賞があり、今回の8名を合わせると計72名の受賞となっています。

※「三世代賞」は、卒業する生徒ご本人・ご父母様・祖父母君様の三世代に亘る母校愛に敬意を表するもので、平成15年度に設けられました。

### 令和3年度 アカシヤ会スポーツ・文化功労賞授与

相澤 柁吾 (1組)	寺門 嵐士 (1組)	柳沼 奏汰 (1組)	遠藤 叶夢 (5組)	阿部 倅己 (9組)
秋元 美幸 (1組)	馬場 央典 (1組)	横田 碧衣 (1組)	熊坂 紘平 (5組)	大野 千夏 (9組)
大越 昂 (1組)	馬場 優斗 (1組)	吉田 達也 (1組)	関根 雅人 (5組)	西山 寛樹 (10組)
大塚 健太 (1組)	星 拳翔 (1組)	遠藤 彩音 (2組)	加藤 彩季 (6組)	菱沼 創太 (10組)
岡部 歩夢 (1組)	増田 武蔵 (1組)	薄井 結香 (3組)	澤井俊太郎 (6組)	原 一心 (11組)
久納 海 (1組)	町田 怜央 (1組)	根本 拓海 (3組)	石川 光流 (7組)	宮崎 菜 (12組)
郡司 采美 (1組)	松川 侑矢 (1組)	渡邊 琴音 (3組)	橋本 青依 (7組)	
近内 要 (1組)	村田 陽希 (1組)	橋本 紗菜 (4組)	石橋瑠々子 (8組)	

### 令和3年度 アカシヤ会学業努力賞授与

遠藤 新 (1組)	柳沼 来綺 (2組)	小林 萌恵 (4組)	小出 匠真 (5組)	幕田 亮介 (6組)
相樂 光希 (2組)	古山 涼葉 (3組)	内田 裕啓 (5組)	渡邊 裕大 (5組)	五十嵐理子 (13組)

### 令和3年度 退職された先生

※敬称略



**渡邊 弘幸**【数学科】  
わたなべ ひろゆき  
勤務期間: 昭和54年4月1日～  
令和4年3月31日  
勤続年数: 43年



**佐藤 新寿**【地歴公民科】  
さとう しんじ  
勤務期間: 昭和54年4月1日～  
令和4年3月8日  
勤続年数: 43年



**大川 聡**【情報科】  
おおかわ さとし  
勤務期間: 平成29年4月1日～  
令和4年3月31日  
勤続年数: 5年



**長沼 美緒枝**【家庭科】  
ながぬま みさえ  
勤務期間: 平成29年5月1日～  
令和4年3月31日  
勤続年数: 4年11か月



**佐藤 聖也**【数学科】  
さとう せいや  
勤務期間: 平成30年9月1日～  
令和4年3月31日  
勤続年数: 3年7か月



**貝瀬 空太**【保健体育科】  
かいせ そた  
勤務期間: 令和2年4月1日～  
令和4年3月31日  
勤続年数: 2年



**平栗 文章**【英語科】  
ひらくり ふみお  
勤務期間: 令和3年4月1日～  
令和4年3月31日  
勤続年数: 1年



## 受章おめでとうございます



### 瑞宝双光章

昭和43年機械科2組卒 第15期生

熊谷 武之氏

1968(昭和43)年に県巡査拜命。交通分野が長く、保険金詐欺やひき逃げなど交通特殊事件捜査に従事した。「家族の支えと仲間の協力のおかげで、事件解決に全力を傾けることができました。支えてくれた皆さんに感謝申し上げます。」



### 瑞宝単光章

昭和43年工業化学科卒 第15期生

武田 友美氏

1974(昭和49)年に県巡査を拜命。36年間のうち地域部門を26年6か月務めた。「警察官人生を全うできたことを誇りに思います。後輩の皆さんにも、健康を大切に頑張っていたいただきたいと願っております。」



### 瑞宝双光章

昭和43年電気科2組卒 第15期生

石井 才市氏

1970(昭和45)年に千葉県警察官を拜命。警察学校卒業後、市川警察署、機動捜査隊、成田空港警察署、県警本部公安課等(刑事、公安畑)を歴任し、平成21年、警部で定年退職(60歳)、同年から平成26年まで千葉県庁職員(嘱託)として大気保全課に勤務。令和4年4月春の叙勲「瑞宝双光章」を受章。「私の人生において最高の誉れです。これはひとえに恩師(原田先生)の『人生どんな仕事でも良いから、真面目に働き、社会の為、人の為になれ』との教えを心の支えとし、勤め上げた結果の賜物だと心より感謝しております。先生や母校に対してささやかな恩返しができたと思っています。」



### 藍綬褒章

昭和54年建築科卒 第26期生

添田 孝利氏

1979年(昭和54)年に鏡石町消防団に入団。副団長時代にOBらの協力を仰ぎ、消防支援隊の設置に尽力した。2021(令和3)年からは団長を務める。「災害防止のため、何よりも団員の皆さんが活動しやすい環境を整える努力をしました。支えてくださった家族や皆さんに心より感謝いたします。」

~~受賞者情報提供のお願い~~

自薦他薦は問いません。新聞掲載の記事と写真を添えて編集部までお寄せ下さい。過去の受賞者も掲載いたします。

## 定例役員会

令和4年11月22日(火)午後6時から郡山ビューホテルAネックス4階山桜にて定例役員会が開催された。参加者は会長・副会長・各支部長・会計監査・事務局員計17名。

今回の役員会はコロナウイルス感染予防対策を万全に期し、パーティションの施された会議室にて実施。副会長の開会の挨拶、会長挨拶、事務局より決算報告と会計監査報告があった。

加えて、令和5年の定例総会に向けての確認事項が審議され、約50分の短時間で閉会となった。

終了後の会食等も自粛された。



## 退職教職員会報告

例年11月に実施されている退職教職員会の定例総会(兼昼食会)は今年度もコロナウイルス感染予防の観点から開催を自粛せざるを得なかった旨、会長の小山田正宏前校長先生より伺った。

会員の先生方は、みなさんお変わりなくお元気にお過ごしのことと付け加えられた。来年こそコロナ収束の後、以前のように昼食会を兼ねた定例総会が開催され、先生方の元気なお姿を写真を添えてご紹介できるよう願っております。

※秋田銀行郡山南支店にて小山田先生の絵が展示されています。近くお通りの際は、ぜひご覧下さい。

## 資料のご提供ありがとうございます

★佐藤光良様(昭和34年機械科1組卒 第6期生 元本校事務課)  
○バックル・校章・襟章・渦流第6号ほか

★鈴木盛雄様(昭和40年普通科卒 第12期生)  
○第80回甲子園大会応援旗ほか

★金澤 裕様(昭和50年普通科1組 第22期生)  
○入学許可書・新入学に関するお知らせ資料ほか



提供された資料の一部

桜葉前号の記事(台風19号水害による資料水没)に心を痛め、手元にある資料等を提供して頂いた方を紹介します。(寄贈・貸与を含む)

★齊藤栄一先生(英語科)

○甲子園記念ペナント第84回(2002年)・85回(2003年)生徒方部別名簿ほか資料

※貴重な資料のご提供、心より感謝申し上げます。同窓会事務局では今後も継続して皆様からの資料等のご提供を受け付けます。特に学校の歴史がわかる平成10年までの「卒業アルバム」のご提供をお待ちしております。よろしく申し上げます。詳細はホームページをご覧ください。

# “『桜朶』の生みの親” 逝く…



故 廣長 威彦氏

昭和32年7月10日に本同窓会会報誌「桜朶」はこの世に産声をあげた。本部と全国の各支部がつながることにより、卒業生が元気に活躍できるようにとの願いを込めて発刊された。桜の幹と枝が豊かに成長し、美しい花をつけているようすを『桜朶』（おうだ：さくらのしだれ）と名付けたという。寒い冬を越え、毎年春に一齐に蕾を開き、咲き誇る桜の花と、年一回会員の皆様に届けられる会報誌『桜朶』が重なる。

その生みの親として第1号から7号まで編集に携わり、題字の『桜朶』を揮毫された廣長威彦氏が昨年の秋に逝去された。廣長氏は日本の原風景を描くため単身二輪車で日本各地に出向き、心ゆくまで筆をとった。多くの人との出会いが氏の作品に豊かさを与えている。中でも彼の版画に使われている和紙（紙漉き第一人者日本国宝作）は最高の一品である。氏曰く、「刷ってみるまではどのような色がでるかわからない。それが味となり、逆に面白いんですよ」。人一倍「美の追求」にこだわった氏の作品は、デッサンから版画印刷、そして表装に至るまで、全て氏の手によって完成されたものばかりである。平成令和生まれの人には理解が困難でも、昭和の原風景を心に持つ人にとっては、氏の作品の数々は過去の記憶を呼び覚まして余りあるものがある。



昭和28年(1953年)公開

廣長氏の絵との出会いは、小説『君の名は』（菊田一夫作）の挿絵だ。「心を奪われた伯父は、出会える保証もないのに佐藤先生のところに出かけて絵の勉強をはじめたのです。行動力は人一倍ありましたね。とにかく常に手を動かしてデッサンしてましたよ。子供のころ私もよく座らされて描いてもらいました。伯父の絵や版画は風景が多いのですが、本当は人の温かさを描きたかったのだと思います。さりげなく人が描かれていますから…。そう語ってくれたのは氏の姪にあたる次田美菜子さん。氏の遺品を整理して出てきたスケッチ（学校風景）を同窓会に寄贈していただいた。



姪の次田美菜子さん

どこにも所属することなく、孤高の画家として純粋に美の追求を生

を全うされた廣長氏。2020年に集大成として個展を開催する予定だったが、コロナにより延期となっていた。「もう少し上手に絵を売ってれば、お金には困らなかったのでしょうけれど…、でも伯父は商売のために描いていたのではなかったのですからいいですね。」と笑う次田さん。そんな孤高の画家の絵（版画）は日本人としては珍しく、大英博物館の要請により二作品が所蔵されている。本校アカシヤ館1階食堂教員席壁にも氏自ら寄贈して下さった版画が飾られている。

生前、親しくアトリエに迎えてくれた優しい微笑みと、氏自ら淹れたコーヒーの香りが懐かしくよみがえってくる。心よりご冥福をお祈りいたします。（合掌）文：高橋敏行



左より 故 石川信義先生・廣長氏・高橋敏行副会長・小林鉄也事務次長



学校への寄贈版画

## 廣長威彦プロフィール

- |   |   |
|---|---|
| 1935 福島県郡山市生まれ、現在も居住                    | 1999 合掌民家への想い展 / 岐阜・白川郷民家園                |
| 1954 東京・佐藤泰治画伯にお会いし、以後油彩画の影響を受ける        | 2000 やすらぎの家並みを描く展 / 横浜・岩崎ミュージアム           |
| 1954 日本大学東北工業高校(現・日大東北高校)卒業             | 2000 日本・名残りの家並み展 / 秋田・仙北・角館町平福記念美術館       |
| 1954~174 郡山市内で20年間スケッチする                | 2001 日本・農村集落の原風景展 / 福島・本宮・白沢ふれあい文化ホール     |
| 1958~72 全国の洋風建築を写生する                    | 2003 岩野市兵衛十廣長威彦・版画・民家風土記 / 福井・越前 / 卯立の工芸館 |
| 1960 合掌造り写生を機に全国の民家写生行脚                 | 2003 民家風土記展 / 福島・郡山市民ふれあいプラザ              |
| 1972 版画「三春シリーズ」制作発表                     | 2007 郡山近在・日本一の農村風土景を描く展 / 郡山・県農業総合センター    |
| 1982 角館スケッチと版画制作 / 角館公民館にて展示            | 2011 『原点回帰 1960・2011』油彩画展 / 郡山市民ふれあいプラザ   |
| 1983 東北の民家百展 / 宮城・仙台・県民ギャラリー            | 2013 福島県の画人・米倉倉◆廣長威彦展 / 秋田・仙北・角館町平福記念美術館  |
| 1984~188 「雪国の民家」[民家往来][民家余情]版画展 / 横浜三越  |   |
| 1986 ふるさと民家百展 / 東京・銀座・三菱電機銀座スカイリング      |   |
| 1987 集落と町並み百展 / 福島・郡山市民文化センター           |   |
| 1994 民家との出会い 35年展 / 福島中合                |   |
| 1995 白川郷・越中五箇山合掌民家スケッチ展 / 岐阜・白川郷ふるさと体験館 |   |
| 1995 日本の町並みと集落再見展 / 東京・新宿・東京ガスショールーム    |   |





## 桜采編集部よりお知らせ

### ★学校に関する資料提供のおねがい

引き続き卒業時のアルバムや高校在学中の印刷物『渦流』等の提供を受け付けます。

### ★次回の桜采21号(2023年12月発行予定)原稿募集

- ①高校時代の思い出600～1000字程度。(文字数を超える場合は要相談、併せて写真の提供もお願いいたします。)
- ②現況報告も募集しております。綴じ込みはがきで「掲載希望」にチェックを入れて投函してください。  
※詳しくは桜采編集部まで。 ☎024-956-8852

### ★小説『風船は、シャボン玉の中へ』プレゼント ※文芸社より発売中

橋本ひろ実様(相模鉄道アカシヤ会所属)の新刊『風船は、シャボン玉の中へ』を抽選で30名様に差し上げます。ご希望の方は綴じ込みはがきに「小説希望」と明記し、桜采20号の感想とともに投函してください。「少年から青年への多感な年頃の主人公に起こる怪事件を痛快に紐解く、ユーモアあふれる物語」渾身の作品をぜひ一度手に取ってお読みください。

＜お詫びと訂正＞ 昨年の桜采19号の9頁の伊藤和幸氏(平成3年電気科2組卒38期生)の記事中の「東京電力福島第二原子力発電所から…」は、正しくは「東京電力福島第一原子力発電所から…」でした。お詫びし、訂正いたします。

## 編集後記

節目を記念する「桜采20号」を皆様のお手元にお届けすることができましたことに無上の喜びを感じます。ご協力いただいた先生方や数多くの先輩・後輩の皆様、そして関係各位に心より感謝申し上げます。本同窓会は令和7(2025)年に創設70周年を迎えます。母校と同窓生をつなぐための様々なアイデア・ご意見等を事務局宛にお寄せください。第1期生の廣長先輩を初めとした草創期の方々の熱い想いと伝統を受け継ぎつつ、時代に合った『桜采』へと、より進化させて参ります。会員の皆様のご指導・ご協力をお願い申し上げます。では、令和5年が皆様にとって素晴らしい一年となりますように…。皆様よいお年をお迎えください。(編集部一同)

### 《同窓会のHP(ホームページ)について》

同窓会のHPでは、「住所変更」や「お問い合わせ」が可能です。

さらに会報誌「桜采OUDA」1号～19号のバックナンバーもご覧いただけます。<http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com>

### 郵便はがき

9 6 3 1 1 9 0

料金受取人払

郡山局承認

2433

郡山市田村町徳定字中河原 1

日本大学東北高等学校

同窓会 行

差出有効期限  
令和5年12月20日迄  
です。切手をはらず  
にお出ください。



現住所	〒		都道府県		
TEL	携帯				
	氏名		生年月日	男・女	
卒業年	年3月卒		※いずれかに○をつけてください。 建設・機械・電気・工業化学 普通・土木・建築		

### 【個人情報の取り扱いについて】

1 ご提供いただいております個人情報は以下の目的で使用いたします。  
同窓会が本来の目的とした活動をする場合、また必要と思われる作業を進行する際など合法的な目的のために活用する場合。(同窓会会報、総会通知、クラス会通知、支部会通知、周年募金・寄付活動・会費徴収の発送宛名及び各種リスト等) 同窓会会員名簿の作成。  
上記1の使用に当たっては、氏名、フリガナ、郵便番号、現住所、電話番号、勤務先名、勤務先電話番号を利用させていただきます。

### 2 個人データの第三者提供の制限

ご提供いただいております個人情報の内容は、本人の承諾なしに学校、同窓会関係者以外の第三者に開示、提供することはありません。ただし、以下のような場合は、例外として情報を開示できるものといたします。

### 法令の規定による場合

ご本人及び公衆の生命、健康、財産等の重大な利益を保護するために必要な場合

### 3 個人情報管理について

ご提供いただいております個人情報はデータ処理等の業務委託をお願いしております業者において機密保持に万全を尽くすことの確約を得ております。

### 4 個人情報の開示・訂正・削除について

個人情報は原則として本人に限り、開示・訂正・削除・利用の停止を求めることができます。  
個人情報の取扱に関する件で何か申し出がある場合は、同窓会(日本大学東北高等学校同窓会(アカシヤ会)へ左記のハガキ、もしくは下記ホームページよりご連絡ください。

ハガキでの返信もしくはホームページへの返信のなき場合には、承諾していただけたものとさせていただきます。ご了承いただけますようお願いいたします。

### お問い合わせ

日本大学東北高等学校同窓会

郡山市田村町徳定字中河原 1

<http://www.nichidai-tohoku-dousoukai.com>



同窓会HP